

鹵獲品

小銃

小銃

手榴彈

手榴彈

13. 九月十四日

九月十五日

四一六

陸軍中尉

兵科見習士官

熱海 孫一郎

渡利 巖殿

以下三十二名

北支那特別警備隊要員トシテ屬トシテ多ク出發ス

三自九月十日昭和十八年秋李其西作戦ニ參加

大隊ハ旅團命令ニ基キ左記編成ヲ以テ冀西地區ニ踏蹠スル

晋察冀邊區等ノ共產軍ニ對スル作戦ニ參加ス

部隊ノ編成左ノ如シ

指揮官

大隊長

陸軍大佐

喜多勇吉

大隊本部

歩兵三中队(第三中队及獨立歩兵第六大隊第一中队(堀隊))

歩兵砲中队(小尺)

機関銃中队

通信小队

旅團通信隊三號無線一分隊

戰鬥救護班

彈藥班

行李

宣傳工作隊

物資收集班

主要戰鬥及其他正ノ如シ

1. 九月十八日紅岩寺掌附近戰鬥

郝家庄北側高地ニ進出シタル第三中队ハ拂曉以後豫定

行動ヲトリ附近ヲ掃蕩シ、紅岩寺掌南側高地ニ進出
シ又土時三分折柄峪地道通過中、堀隊一部對シ射撃
中敵約三十名ヲ發見直ニ之ヲ攻撃追撃セシモ地形悪ク
到ル處断崖地帯ナリ追撃意、如クナラズ敵ヲ捕捉スル
ヲ得ズ

敵ノ兵力及圍休號
平定支隊約三〇

我が兵力

指揮官 後田大尉

兵力 (歩兵) 一中隊

ハ交戦時間 自十一時三分至十二時三分約一時間十分

ニ我が損害

戦傷 兵一

ホ敵ノ損害

遺棄死体 二

鹵獲品

手榴彈 一八

地雷 八

部隊主力ガ紅岩寺掌南側高地ニ向ヒ前進途中降雨後
道路崩壊、爲步兵砲中隊馱馬(日馬一墜)死軍犬一

戦死ス(地雷ニ依ル)

2 自九月十九日大隊ハ銀尾河及其附近ニ位置シ周邊別扶掃
蕩ヲ實施ス

3 九月二十五日大隊長受傷

大隊ハ洪子店ニ向ヒ前進中灘北方一軒地点ニ達スルヤ道路
ハ降雨、爲切断セラレ漸ク徒歩兵、通過ヲ許ス程度ニシテ加
フルニ左側ハ岩石露出岩盤地帯ニシテ勾配急ヲ極メ右
側ハ断崖ヲ形成シ増水セル漳泥河、河水滔々ト流レ馬匹ノ

通過極ノテ困難ナリ依而道路修理ヲ命ジシ、遅々ト前進スルノ止ムキ至ルヤ大隊長ハ率先躬ヲ以テ道路修理ヲ督勵シ行軍ノ滯滞ヲ防グベク兵ヲ叱咤激勵シ工事ヲ急ヤアリシニ遇々飛馬ノ通過ヲ避ケルベク右側断崖ニ身ヲ寄セラル、ヤ足場ノ岩ハ兩ノ為地盤緩ミアリタルモノ、如ク一瞬崩壞シ身体諸共高サ數米、断崖ニヨリ墜落受傷（左脛骨胛骨完全皮及下骨折兼右前額部挫創）ス下口鎮戰闘司令所ニ後送ス旅團命令ニ依リ

大隊長代理

陸軍大尉

後田清人

4九月二十六日水窪里附近ノ戰闘

洪子店及沿道部落ヲ掃蕩シシ、先兵先頭ヲ以テ水窪里西北一料ノ地点ニ達スルヤ約三〇ノ敵西側稜線ヨリ我ニ射撃シ來ル尖兵タリシ第三中隊長ハ獨斷以テ果敢ナル攻撃ヲ實施シ敵ニ大ナル損害ヲ與ヘタリ

イ敵ノ兵力及圍休號

第三十六團偵察連 約三〇

ロ我が兵力

指揮官

中隊長

鈴木少尉

歩兵

一中隊

ハ交戦時間 約十五分 約一時間

ニ我が損害ナシ

ホ敵ノ損害

遺棄屍体

九

捕虜

四

鹵獲品

小銃

二

拳銃

一

手榴彈

一〇

銃 劍 三

5 九月二十日 觀音堂附近 戰鬪

下口鎮殘留部隊、李家庄大隊本部、歸還途中觀音堂附近に於て約三〇ノ敵射撃シ來レルヲ以テ後衛兵長吉田見習士官ハ直ニ之ヲ攻撃シ潰走セシム此ノ時吉田見習士官ハ左肩胛骨下部右側胸部ニ貫通銃創ヲ受ケ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲ

敵ノ兵力及圍体號

第三十四團ノ約三〇

我が兵力

指揮官

吉田元見習士官

兵 力 歩兵一 小隊

ハ 交戦時間

自五時三十分 至七時三十分 約一時間三十分

ニ 我が損害

戦死 一

敵ノ損害

遺棄屍体 八

鹵獲品

小銃 五

拳銃 一

手榴彈 六

小銃彈 一〇

6 十月一日 東磐石附近 戰鬪(掃蕩)

大隊ハ石盆溝附近ノ敵ヲ索メテ前進中東磐石附近ニ

敵約二〇アルヲ知リ之ヲ攻撃シ潰走セシム

敵ノ兵力及圍体號

第三十四團ノ約一五〇 休養連一五〇

我が兵力

編成ニ同シ

ハ我が損害ナシ
ニ敵ノ損害(綜合戦果)

遺棄屍体

二四

捕虜

一一

鹵獲品

銃

三

同彈藥

五八

手榴彈

三

銃劍

一二

被服庫覆滅

一

7月十日車輻安附近戦闘

車輻安附近ヲ掃蕩中、第二中隊中野渡小隊ニ對シ車輻

安東北方約一料ノ高地ヨリ敵約三〇射撃シ來レルヲ以テ

小隊長ハ掃蕩中兵力ヲ集結シ一部ヲ以テ東北方ヨリ敵

退路ヲ遮断シ命シ主力ハ敵左側背ヨリ猛烈ニ攻撃シ之ヲ潰走セシム

敵ノ兵力及圍体號

約三〇

我が兵力

指揮官

小隊長

中野渡少尉

歩兵

一小隊

ハ交戦時間 約十五時三分 約一時間三分

ニ我が損害

戦死

一(小隊長)

ホ敵ノ損害

遺棄屍体

八

鹵獲品

小銃

五